

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2000-352985

(43)Date of publication of application : 19.12.2000

(51)Int.Cl.

G10K 11/08
F16M 13/04
// A44B 21/00
A45C 13/30

(21)Application number : 11-164878

(71)Applicant : SHARP SANGYO KK

(22)Date of filing : 11.06.1999

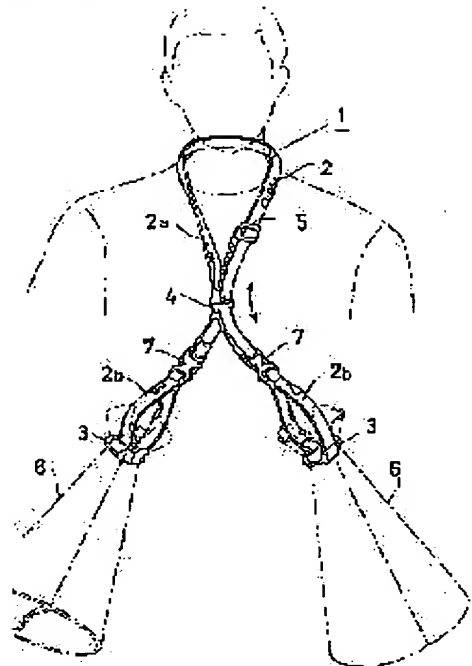
(72)Inventor : KOBAYASHI KATSUKI

(54) STRAP FOR CARRYING CHEERING IMPLEMENT, SUCH AS MEGAPHONE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a strap which can be conveniently used for carrying of cheering implements, such as megaphones, and is capable of carrying the cheering implements with a good appearance.

SOLUTION: This strap is constituted by mounting securing members 3 capable of freely attachably and detachably securing the implements 6, such as the megaphones, to both ends of a flexible strap body 2 having at least a length to allow hanging of the strap at least on the neck. The strap body 2 is formed adjustably in its length and rubber-like elastic expansion rings are used for the securing members 3. The strap body is composed of an intermediate main part 2a of the prescribed length to be hung at the neck and extension part ends 2b extended separably by means of connecting members, such as buckles 7 to both ends thereof. The extension part ends 2b are formed in a ring form to allow to insert the wrists.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 29.03.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3495293

[Date of registration] 21.11.2003

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

This Page Blank (uspto)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-352985

(P2000-352985A)

(43)公開日 平成12年12月19日(2000.12.19)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-コ-ト* (参考)
G 1 0 K 11/08		G 1 0 K 11/08	
F 1 6 M 13/04		F 1 6 M 13/04	C
// A 4 4 B 21/00	6 0 1	A 4 4 B 21/00	6 0 1 Z
A 4 5 C 13/30		A 4 5 C 13/30	H

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 5 頁)

(21)出願番号 特願平11-164878

(22)出願日 平成11年6月11日(1999.6.11)

(71)出願人 592127264

シャープ産業株式会社

大阪市中央区南船場4丁目10番28号

(72)発明者 小林 勝喜

大阪市中央区南船場四丁目十番二八号 シ

ャープ産業株式会社内

(74)代理人 100071168

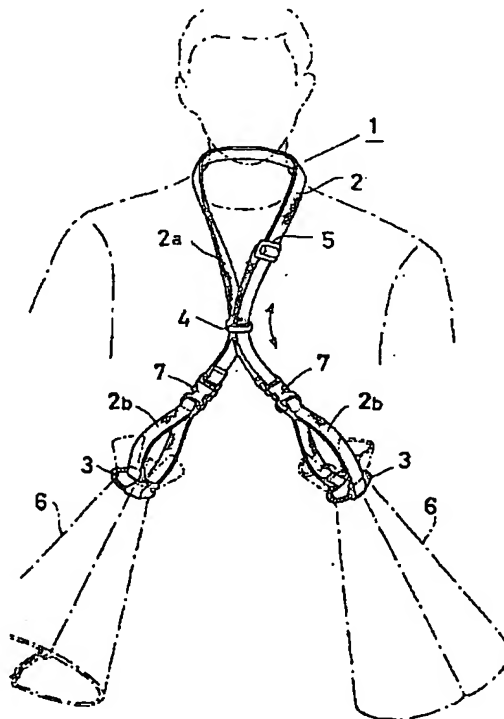
弁理士 清水 久義 (外2名)

(54)【発明の名称】 メガホン等応援用具の携帯用ストラップ

(57)【要約】 (修正有)

【課題】 メガホン等応援用具の携行に便利に使うことができ、しかも体裁良く携行できる携帯用ストラップを提供する。

【解決手段】 少なくとも首掛け可能な長さを有する可撓性のストラップ本体2の両端にメガホン等の応援用具6を着脱自在に止着可能とする止着部材3を取り付けた構造とする。上記ストラップ本体2は長さ調節可能なものとし、かつ上記止着部材3にはゴム状の弾性伸縮環を用いる。ストラップ本体は首掛けされる所体長さの中間主体部2aと、その両端にバックル7等の連結部材を介して分離可能に継ぎ足された継ぎ足し端部2bとで構成され、継ぎ足し端部2bは手首が挿入可能な輪状に形成されている。



BEST AVAILABLE COPY

等によるものが好適に用いられる。

【0014】また、この発明の適用対象となる応援用具として、例えば円錐筒状の単体のメガホン、2個の半円錐筒状の本体が一点において枢着結合されて開閉可能とされたV字状のメガホン、あるいは野球用バットを模した形状、さらにそれがデフォルメされた形状の応援用具等が挙げられる。なお、当該応援用具には、ここに挙げたものに限らず、手に持って扱うことができ、かつ容易に持ち運び可能なものであれば、その他のいかなる応援用具であっても適用可能である。

【0015】

【発明の実施の形態】以下、この発明の実施の形態を、実施例を示す図面に従って説明する。なお、以下に示す実施例では、ストラップ本体として断面形状が扁平である細幅の織製紐を採用している。

【0016】図1は、この発明のメガホン等応援用具の携帯用ストラップの好適な実施形態を示す全体斜視図である。(1)はメガホン等応援用具の携帯用ストラップであり、ストラップ本体(2)とその両端に取り付けられた止着部材(3)から構成されている。

【0017】ストラップ本体(2)の幅は約2cm、長さはこれを首に掛けたときにその両端が使用者の少なくとも胸部乃至腹部の近傍に位置する程度の長さとなされる。

【0018】当該携帯用ストラップは、これを首に掛けた状態において、首の両側から垂れ下がるストラップ本体(2)の両側部を、使用者の胸部前面の任意の高さ位置で収束状態に結合しうるリング状の結束部材(4)を具備したものとされている。該結束部材(4)によれば、これを矢印方向に任意に移動して、上方に位置させるとストラップ本体(2)を首元にしっかり固定することができ、また下方に位置させるとストラップ本体(2)を首から容易に取り外すことができる。結束部材(4)の形状は、長方形リングの他、円形リング、楕円形リング等、いずれの形状のものであってもよい。

【0019】なお、前記結束部材(4)は、各種形状リングの他、ストラップ本体(2)の収束を要する任意の位置に平面的に取り付けられた面ファスナー(図示省略)としたり、その他、釦等を用いてもよい。

【0020】また、前記ストラップ本体(2)は、その長さが調節自在に構成されている。すなわち、前記ストラップ本体(2)には、その長さ方向の一部に、公知の日字状の成形部材からなる長さ調整部材(5)が取り付けられており、これの位置を任意に調節することにより、ストラップ本体(2)の有効長さを自在に変更することができるようになっている。これによって、止着部材(3)の位置は、上げ下げ自由となる。

【0021】さらに、ストラップ本体(2)の両端に取り付けられた止着部材(3)は、応援用具の一部にはめて、あるいは係止してこれを着脱自在とするものであ

り、特に限定されるものではないが、最も好適な実施例としては、図1に示すように、ゴム状弾性を有する伸縮環が用いられている。該止着部材(3)は、例えば太さ3~5mm程度の天然ゴム、合成ゴム等のゴム状弾性体からなる直径数cmのリングからなり、例えばメガホン等応援用具(6)を、そのくびれ部分等にはめ込むことによって、ストラップ本体(2)の両端に止着することができ、また必要に応じて適宜取り外し、あるいは異なる別の応援用具と交換することが容易に行えるものとされている。なお、止着部材(3)としては、前記伸縮環のほか、図示を省略するが、応援用具に設けられた着脱用リングに係止しうる鉤状体を用いることもできる。

【0022】また、図2に示すように、この発明のメガホン等応援用具の携帯用ストラップにおいては、ストラップ本体(2)が、首掛けされる所定長さの中間主体部(2a)と、その両端に、連結分離が自在に行えるバックル等の連結部材(7)を介して分離可能に継ぎ足された継ぎ足し端部(2b)とで構成されている。すなわち、連結部材(7)の連結片(7a)(7b)を連結状態から、分離状態とすることにより、中間主体部(2a)と継ぎ足し端部(2b)とを分離できるものとされている。

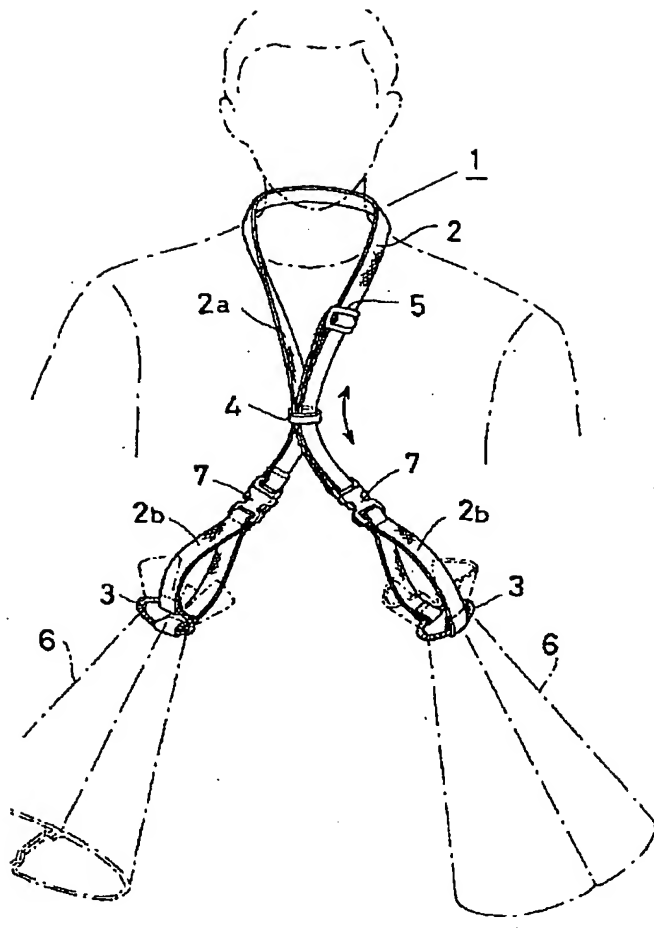
【0023】従って、中間主体部(2a)から継ぎ足し端部(2b)を分離することにより、使用者はメガホン等応援用具(6)を、前記止着部材(3)に止着したままの状態手で握り持ち、自由に扱うことができる。また継ぎ足し端部(2b)を持つことによってメガホン等応援用具(6)を間接的に手に持つことも可能になる。その結果、前記中間主体部(2a)の束縛を受けることなく、メガホン等応援用具(6)を打ち鳴らしたり、振り回すなどの自由な取り扱いが可能となる。なお、前記バックル(7)には、一般公知の差込式のバックルが好適に採用できるが、これ以外の形式のものであっても差し支えない。

【0024】さらに、前記継ぎ足し端部(2b)については、図2に示すように、中間部を前記連結片(7b)に連結し、両端を止着部材(3)に取り付けることで輪状(R)に形成されており、これに手首を挿入することができるものとされている。従って、メガホン等応援用具(6)に止着部材(3)をはめ込み、さらに使用者の手首を前記輪状(R)の継ぎ足し端部(2b)に挿入し、中間主体部(2a)から当該継ぎ足し端部(2b)を分離したまま、メガホン等応援用具(6)を手に握り持つことができ、これを中間主体部(2)の束縛を受けることなく扱うことができることはもちろんのこと、メガホン等応援用具(6)から不用意に手が離れても、メガホン等応援用具(6)は、当該継ぎ足し端部(2b)によって手首に吊り下げられ落下しない。

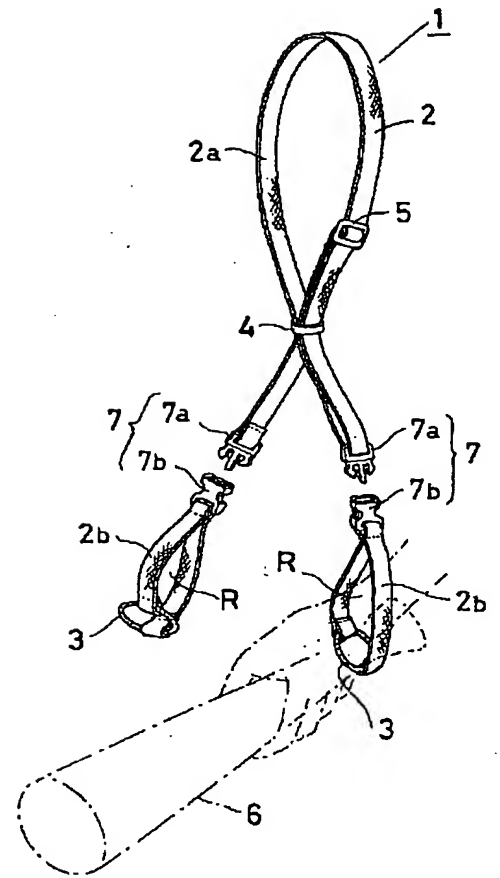
【0025】

【発明の効果】以上詳述したように、この発明のメガホ

【図 1】



【図 2】



ン等応援用具の携帯用ストラップは、少なくとも首掛け可能な長さを有する可撓性のストラップ本体の両端に、メガホン等の応援用具を着脱自在に止着可能とする止着部材が取り付けられてなるものであるから、応援用具を止着部材に止着し、首から吊り下げれば、両手を塞ぐことなく携行するのに便利であり、不用意に落とすことができない。また、首に掛けた状態をまとまりよくすることができ、体裁良く携行することができる。さらに、応援用具を着脱自在にできるから、応援時に外して手に持って自由に打ち鳴らしたり、とくに分離型のメガホン等ではこれを組み合わせて本来の拡声に使用するなど、携帯用ストラップに制約されることなく自由に扱うことができる。さらにまた、応援用具を他の種類のものと自由に交換することができて汎用性に優れるという効果がある。

【0026】また、この発明は請求項2に記載したように、前記ストラップ本体を首に掛けた状態でその両側部を使用者の胸部前面の任意の可変高さ位置で収束状態に結合しうる結束部材が具備されたものとしたから、結束部材を上方に移動すればトラップ本体を首元にしっかり固定することができ、また下方に移動すれば首から容易に取り外すことができ、携帯用ストラップ自体の着脱に便利であるし、携行時の安定を良好に保つことができる。

【0027】さらに、この発明は請求項3に記載したように、前記ストラップ本体が、長さ調節自在に構成されているから、メガホン等応援用具の吊り下げ位置を任意に調節して、長さを長くすればメガホン等応援用具をストラップ本体に取り付けたまま応援等の取り扱いを可能なものとすることができ、また長さを短くすればメガホン等応援用具を胸部付近まで上げて安定良く携行可能なものとするができる。すなわち、メガホン等応援用具を手を持つ必要もなく、またそれがぶらぶらせず携行歩行時の邪魔にならないようにすることができる。

【0028】さらに、この発明は請求項4に記載したよ

うに、前記止着部材が、ゴム状弾性を有する伸縮環よりなるものとしたから、最も簡略な部材でありながら、メガホン等応援用具の脱着、交換を容易に行えるものになる。

【0029】さらにまた、この発明は請求項5に記載したように、前記ストラップ本体の首掛けされる所定長さの中間主体部と、その両端にバックル等の連結部材を介して分離可能に継ぎ足された継ぎ足し端部とで構成することにより、首に掛けられた中間主体部の束縛を受けず、メガホン等応援用具を直接または継ぎ足し端部を介して自由にかつ確実に手に持って扱うことができるという利点がある。

【0030】さらにまた、この発明は請求項6に記載したように、前記ストラップ本体の継ぎ足し端部が、手首を挿入可能とする輪状に形成されることにより、観戦時には前記輪状の継ぎ足し端部に手首を挿入した状態でメガホン等応援用具を手を持って不用意に落とすこともなく容易かつ自由に扱えるという利点がある。

【図面の簡単な説明】

【図1】この発明によるメガホン等応援用具の携帯用ストラップの全体斜視図である。

【図2】図1に示すメガホン等応援用具の携帯用ストラップの一部を分離した状態を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1…メガホン等応援用具の携帯用ストラップ
- 2…ストラップ本体
- 2a…中間主体部
- 2b…継ぎ足し端部
- 3…止着部材
- 4…結束部材
- 5…長さ調整部材
- 6…メガホン等応援用具
- 7…連結部材
- 7a、7b…連結片

【特許請求の範囲】

【請求項1】 少なくとも首掛け可能な長さを有する可撓性のストラップ本体の両端に、メガホン等の応援用具を着脱自在に止着可能とする止着部材が取り付けられるメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【請求項2】 前記ストラップ本体を首に掛けた状態でその両側部を使用者の胸部前面の任意の可変高さ位置で収束状態に結合しうる結束部材が具備された請求項1に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【請求項3】 前記ストラップ本体が、長さ調節自在に構成されている請求項1または請求項2に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【請求項4】 前記止着部材が、ゴム状弾性を有する伸縮環よりなる請求項1乃至請求項3のいずれか1に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【請求項5】 前記ストラップ本体が、首掛けされる所長さの中間主体部と、その両端にバックル等の連結部材を介して分離可能に継ぎ足された継ぎ足し端部とで構成されている請求項1乃至請求項4のいずれか1に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【請求項6】 前記ストラップ本体の継ぎ足し端部が、手首を挿入可能とする輪状に形成されている請求項5に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、野球、サッカー、その他各種の運動競技の応援に用いられるメガホン等応援用具の携帯用ストラップに関する。

【0002】

【従来の技術】従来、野球、サッカー、その他各種の運動競技、とりわけ野球やサッカーのようなチームプレーによる競技の応援に用いられる応援用具には、主にプラスチック製の成形体からなる、拡声用のメガホンや野球用バットを模した形状のものが応援用具として盛んに用いられている。

【0003】前記メガホンの場合は、単に拡声するために用いるだけでなく、前記野球用バットを模した形状のものと同様に、2個の円錐形のメガホンまたは着脱自在に連結され分離可能な半円錐形のメガホンを拍子木のように打ち鳴らしたり、それらに着色され描画されたチーム固有のカラーやイラストを顕示するように振りながら用いられる。

【0004】また、近年、競技観戦の前後においても、これらの応援用具を手にとって、第三者がこれら応援用具を容易に傍観できるように往路、復路を持ち歩くことが、この種競技の愛好家の間で流行っている。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】ところが、従来の応援用具は、競技場における競技観戦前後の往路、復路の雑踏の中を手を持ちたり脇に抱えて歩くには、その嵩張っ

た形状や大きさにも起因して、実際には携行するのが煩わしい。しかも、携行するときの体裁がよいとはいえず、愛好家にとって好ましいスタイルを演出することができない。

【0006】この発明は、上記のような問題に着目し、従来公知の技術要素を利用しつつ新規な組合せをすることにより、応援用具の携行が便利であり、好ましいスタイルを演出しつつ携行することができ、しかも応援用具の着脱も容易かつ確実に行うことができるメガホン等応援用具の携帯用ストラップを提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】この発明は、上記目的を達成するために、少なくとも首掛け可能な長さを有する可撓性のストラップ本体の両端に、メガホン等の応援用具を着脱自在に止着可能とする止着部材が取り付けられるメガホン等応援用具の携帯用ストラップを要旨とする。

【0008】この発明の好ましい実施態様は、請求項2に記載したように、前記ストラップ本体を首に掛けた状態でその両側部を使用者の胸部前面の任意の可変高さ位置で収束状態に結合しうる結束部材が具備されたメガホン等応援用具の携帯用ストラップである。

【0009】この発明の好ましい別の実施態様は、請求項3に記載したように、前記ストラップ本体が、長さ調節自在に構成されているメガホン等応援用具の携帯用ストラップである。

【0010】この発明の好ましいまた別の実施態様は、請求項4に記載したように、前記止着部材が、ゴム状弾性を有する伸縮環よりなるメガホン等応援用具の携帯用ストラップである。

【0011】この発明の好ましいさらに別の実施態様は、請求項5に記載したように、前記ストラップ本体が、首掛けされる所定長さの中間主体部と、その両端にバックル等の連結部材を介して分離可能に継ぎ足された継ぎ足し端部とで構成されているメガホン等応援用具の携帯用ストラップである。

【0012】この発明の好ましいさらにまた別の実施態様は、請求項6に記載したように、前記ストラップ本体の継ぎ足し端部が、手首を挿入可能とする輪状に形成されている請求項5に記載のメガホン等応援用具の携帯用ストラップである。

【0013】この発明において用いられるストラップ本体は、皮製紐、織製紐、その他の可撓性の長尺紐体を総称するものであり、簡単に縫れ合ったり、切れたりするものでない限り、断面形状が扁平、円形、その他いずれの形状であっても差し支えないが、実用的には断面形状が扁平である細幅の織製紐が最も好ましい。なお、織製紐の材質は、ナイロン、ポリエステル、綿またはポリエステル等の単一糸、あるいはポリエステルと綿の混紡糸

This Page Blank (uspto)